

景気動向調査 令和5年度・第3期（令和5年10月～令和5年12月）

調査概要

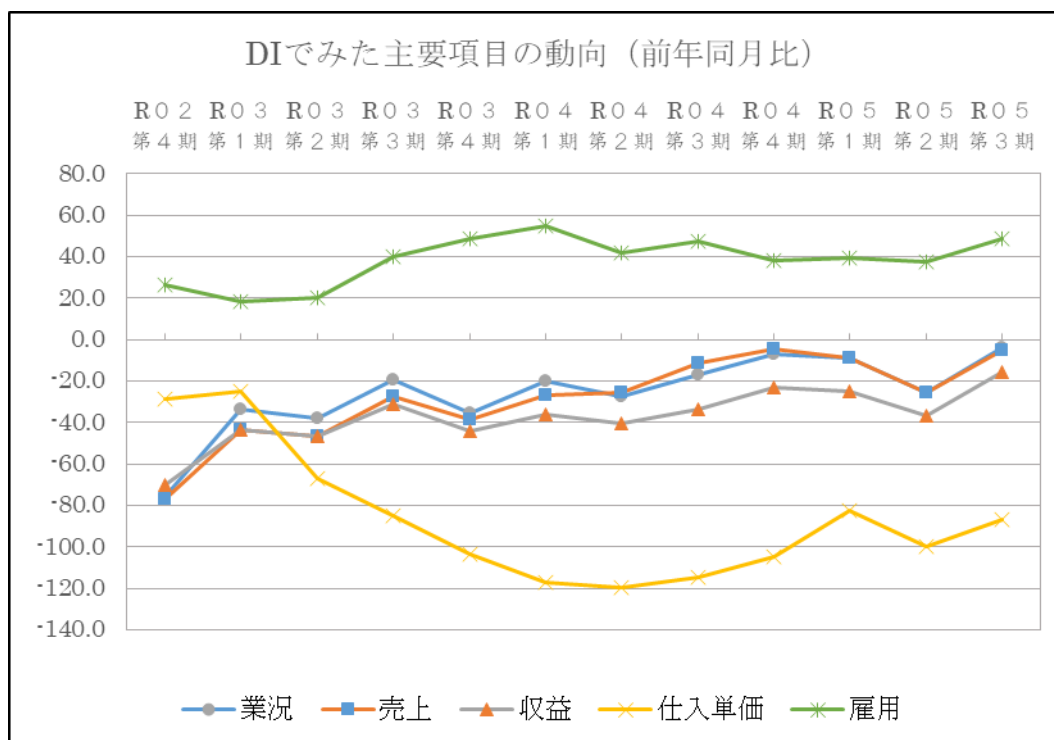
調査対象:赤穂商工会議所管内 120社

回収:82社 回収率:68.3%

調査対象期間:令和5年10月～令和5年12月(令和5年度・第3期)

DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計DI

区分	R5第2期 (R5年7月～9月)	R5第3期 (R5年10月～12月)	先行き見通し (R6年1月～3月)
業況	△25.8	△3.7	△7.3
売上	△25.8	△4.9	△11.0
収益	△36.6	△15.9	△14.6
仕入単価	△100.0	△86.6	△54.9
雇用	37.6	48.8	46.3

※雇用DIについては、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査(R5年2期)に比べ22.1ポイント上昇の△3.7となった。売上DIは20.9ポイント上昇の△4.9、収益DIは20.7ポイント上昇の△15.9となり、また仕入単価は13.4ポイント上昇で△86.6、雇用DIは11.2ポイント上昇の48.8となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果(R5 年 3 期)に比べ 3.6 ポイント下降の△7.3 で、売上DIは 6.1 ポイント下降の△11.0、収益DIは 1.3 ポイント上昇の△14.6、仕入単価DIは 31.7 ポイント上昇の△54.9、雇用DI は 2.5 ポイント下降の 46.3 となっている。

売上 D I

区分	R4 第 3 期	R4 第 4 期	R5 第 1 期	R5 第 2 期	R5 第 3 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△11.2	△4.7	△8.7	△25.8	△4.9	△11.0	△6.1
建設業	△15.4	△7.1	△8.3	△46.7	△75.0	△66.7	8.3
製造業	4.2	0.0	△10.7	△7.4	13.6	0.0	△13.6
卸売業	△33.3	△33.3	△20.0	△50.0	10.0	10.0	0.0
小売業	△17.9	△16.7	△14.8	△28.6	7.7	△11.5	△19.2
サービス業	11.1	33.3	0.0	△22.2	0.0	12.5	12.5
不動産・ 運輸業	△33.3	20.0	40.0	0.0	△25.0	0.0	25.0

○産業別の売上DIは前回調査(令和 5 年 2 期)と比較すると、製造業が 13.6(+21.0 ポイント)、卸売業が 10.0.(+60.0 ポイント)、小売業が 7.7(36.3 ポイント)、サービス業が 0.0(+22.2 ポイント)で改善、建設業は△75.0(△28.3 ポイント)、不動産・運輸業が△25.0(△25.0 ポイント)で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果(R5 年 3 期)と比較し△11.0(△6.1 ポイント)となっている。

経営上の問題点 (上位 3 項目)

区分	R4 第 3 期	R4 第 4 期	R5 第 1 期	R5 第 2 期	R5 第 3 期	前回調査比
売上の停滞・減少	23.6	25.6	18.5	29.0	34.1	5.1
人手不足	20.2	16.3	21.7	20.4	25.6	5.2
原材料高	19.1	24.4	21.7	22.6	14.6	△7.9

○事業所からのコメント

建設業：値上がり、補助金、インボイスや電子帳簿保存法で事務が増大する一方
小売業：医療業界は急激な売上の上下は比較的少ないのでまだ助かっている。
労働力不足が進む中、一層の業務効率化が必要。
サービス業：人手不足が危機的状況である。

<参考>

有効求人倍率

区分	R5.9月	R5.8月	R5.7月
一般(常用)	0.80	0.85	0.86
パート(常用)	0.90	0.94	0.96
一般+パート(全合計)	0.85	0.89	0.91

